桜川市観光協会第3回中長期計画策定委員会経緯

日時　平成26年11月6日

場所　桜川市役所真壁庁舎3190会議室

メンバー　井上周一・櫻井朋彦・西岡勇一郎・井上正次・吉田寛司・鈴木孝和・仲田勇・鈴木謙一・田中良枝

（事務局　鶴見健太郎・渡辺創）

議事内容

①井上実行委員長あいさつ

②これまでのワークショップに至るまでの経緯、この会議の立ち位置

～事務局説明～

（井上正次）2回のワークショップの目的がわからなかった。

（鈴木孝和）笠間周遊マップの例、どこになにがあるのか。それを一番初めにまとめてから話し合いをすべき。

（委員長）データベース化。ワークショップで出た内容を体系的にまとめる。

（井上正次）先が見えない。ワークショップを行っても何かアクションを起こせるのか。

（鶴見）　観光の定義があいまいなので、それを明確にまずは定めたい。

（井上正次）　定義を定めることに関しては理解できるが、あんまり長くワークショップ等をしていくと、今度は踏み出すことができなくなってしまうのではないか。早くなにかしら実行に移すべき。

（鈴木孝和）笠間の例。視野が広い。周りの市との連携。市内で収まらない観光。

（吉田寛司）原則として観光とは外から人を呼ぶこと。現状は反対。行動を起こせていない。

（鈴木孝和）ワークショップについて、漠然としすぎ。どこになにがあるのか。何よりもまず誰が見ても分かりやすい形でデータベース化をすべき。

（鈴木孝和）問題点も議論すべき、駐車場との問題。

（仲田勇）いい面・悪い面のすべての情報の共有

（鶴見）観光協会の活動指針の策定、外から人を呼ぶ。

（西岡勇一郎）実行すべき段階ではなく、まずは情報の共有

（櫻井朋彦）ニーズの多様化に対応するためにはデータベース化をし、幅広い情報の共有の周知を図るべき。

（井上正次）5年後・10年後にはどこにいくのか。今後進めていくためのビジョンが見えない。いついつまでにここまで進めるという予定を定めるべき。

（仲田勇）実行すべき段階に移る前に、観光協会の会員全体が共有できる資料を作成していくべき。

※備考　皆さんが思う観光とは

（井上正次）女子旅ゆるさんぽの例

（仲田勇）ものはたくさんある。ただ、整備ができていない。

（委員長）桜川市の現状。観光客を受け入れるキャパシティーがない。

（櫻井朋彦）駅からハイキングの短所、いろんなイベントの短所、桜の保存。ひなまつりに関して。

（西岡勇一郎）体験型の観光の振興。もう少し細かいものを拾い出して会員さんに提示してあげる。

（櫻井朋彦）外から来る人が増えることによって、地元の人の認識を深める。何か新しいことをするための指針の必要性。

③今後の計画

（仲田勇）データベース化をみんなで進める。一人一人が細かい項目を（得意な科目）データベース化していき、それを発表する機会を作る。その後、事務局が資料をまとめ、ホームページ等にアップする。項目については自由。

（櫻井朋彦）外部の人に評価していただく、相談させていただく機会の創出。

（委員長）会議という形ではなく勉強会の形で開催。

（鈴木謙一）個人がやっていることを見に行くのもいい。

（仲田勇）　1人２つ以上の情報をもち入りそれを話す機会。一般にも周知する。笠間の観光協会。完全なプロではない人。周知はホームページ・会員に郵送。

まとめ

まずはありとあらゆる情報を何らかの形でデータベース化するという結論に至った。そのためには、たくさんの情報を共有していく場がもっと欲しい。そのための手段としてまずは何回か勉強会を開く。情報が集まり次第、または同時並行で何らかの形でデータベース化をしていく。

次回の予定

12月に勉強会を開く。1人２つ以上の情報をもち入りそれを話す機会。一般にも周知する。周知方法はホームページ及び、観光協会会員全員に郵送。